

平成 25 年第 3 回定例会 産業労働常任委員会

平成 25 年 10 月 3 日

佐々木委員

最初に、さがみロボット産業特区について、6 ページについて質問させていただきたいというふうに思います。

その前に、今回の定例会の本会議の一般質問で、我が会派の質問に、さがみロボット産業特区と Y R P との連携という話をさせていただきまして、知事からも、Y R P が長年培ってきたノウハウを生かして、使用制限がされていた周波数帯の電波での実証実験を年度内に行うと、努めているという趣旨の話がありましたが、これについてもうちよつと具体的にどういうことなのか、教えていただければと思います。

産業振興課長

電波法に関する規制緩和につきましては、これまで国との協議を続けてまいりまして、実証実験が行い得る環境まで進んできた、一定の緩和が、運用上なされてきたというところがございます。今後は、実験試験局の免許を個別の案件で取りまして、そして実証実験に入っていくということになりますので、その個別の案件について総務省の方とこれから協議をしていく、その段階におきまして、Y R P がそれまで培ってきた電波あるいは情報通信のノウハウ、そういったものを生かしながら、一緒になって総務省に当たっていくというようなことで、Y R P 側の方と、今、調整を進めております。

佐々木委員

それは、県民生活にとってどのような方向性で役に立つのか、具体的には言えないんでしょうけれども、様々なことがありますので、例えば災害の関係なのか、介護、医療なのか、高齢者なのか、そういう分野ぐらいで構わないんですけれども、実証実験の可能性のあるのはどういう分野なのか。

産業振興課長

現在、考えておりますのは、災害対応ロボットが一つ、それから高齢者向けの生活支援ロボットが一つでございます。災害対応のものにつきましては、ウルトラワイドバンドを使って、瓦れきの中から中に埋もれている方を救出する、そういったものについて、Y R P と一緒に実験試験局の免許を取り、場合によっては、Y R P の中にもそういった実証の場をつくりながら進めていきたいと考えております。

また、高齢者向けのものにつきましては、その見守りシステム、LED の中に入れたセンサーで見守りしていくというような部分等について、これから調整を進めてまいりたい、ただ、その 2 件の中では、特に災害対応ロボットの方をまず優先的に進めてまいりたいというふうに考えております。

佐々木委員

非常に大事な分野だと思いますので、是非進めていただいて、実証実験ができ

るように努力をしていただきたいし、私も陰ながら推薦させていただきたいと思います。

その上で、さがみ縦貫道の位置付けというのは、首都直下地震があれば、西の方からの救援の助けになる大事な要素になる道路ですし、南海トラフ大地震があれば、また東の方から助けに行く、そういう意味からも、そういうところで災害救援ロボットを作っていくということの意義も更にあるんじゃないかと、このように思っているんですが、それも踏まえて、本腰を入れてやっていただきたいと思っています。

その上で、電波法に関する規制緩和の協議が進んでいて、実証実験が行えるようになった場合なんですけれども、その前に、今回の6ページに載っています地域協議会の会員、YRPも、今回、オブザーバーになったということでもありますけれども、協議に入っているJAXAの専門にやっている教授など、そういう方々の懸念があると、それは、彼らの宇宙研究の中で、宇宙から届いている超微弱な電波の調査をしている、その研究をしているということがあって、電波法の規制緩和によってその研究に支障を来すのではないかとという懸念があるということが、地域協議会に参加しているJAXA、そういうところから、声があるというふうに聞いています。私の選挙区の相模原市中央区にJAXAもあるものですから、地域でいろいろJAXAのアピールで様々なイベントに参加している中で、そういうときの対話の中でも話があるんですが、そういうオブザーバー的な会議の中でも、そういう声が出てきているということがあるので、そういったところの調整をしっかりとやっていくことが大事だと。専門家同士のことなので、それが良い方向にかみ合えば伸びるんでしょうけれども、それがぶつかり合っていくと、なかなかロボット特区が進まないとか、規制緩和が進まないとなってしまうといけないので、その辺の調整をどう考えているのか、それについてお聞きします。

産業振興課長

宇宙航空研究開発機構、JAXAは、確かに、今、先生の方から御紹介いただいたように、宇宙からの微弱電波を捕捉する、そういった調査を行っておりますので、先ほど申し上げたようなUWB等の電波を使った場合に、影響を受ける可能性はございます。そういったお話は、私どもも承っておりますが、ただ今回、実験試験局の免許を受けていく際には、そういったものも含めて、周辺への環境、周辺で電波を使われている方への影響は最小限にするということが、免許を受ける上では必要になってまいりますので、JAXAを含めて、他の方々へ影響を与えないような、そういった調整はしてまいりたいというふうに考えております。

必要に応じて、その実験試験局を行う場所にもよりますので、影響があるようであれば、例えば場所を変えとか、出力の強さを変えとか、そういった形も必要に応じて調整をさせていただきたいというふうに考えています。

佐々木委員

知事が、総務省、国への申請をするときにも、JAXAの教授陣が非常に力を貸して、一緒になってプレゼンテーションしてきたという経緯もありますし、こ

ういう新たにYRPとか、専門的にやっている研究施設、企業なんかが今後どんどん入ってくる場合もあると思うんです。それぞれにこういう地域協議会の会員であったり、オブザーバーの人たちの専門性をよりよく生かしていく、その調整役を県がしていくということが大事だと思いますので、オブザーバー会議のような、そういう会議で、今、こういう状況で規制緩和がこのぐらい進んでいると、今後の取組と課題はこうだという報告はいいんですけども、そういうオブザーバーとか会員の人たちの幅広い意見交換、それは、双方の協力体制が整うような建設的な意見交換みたいなものをもっと積極的にやっていくことが、県の役割として大事でないかと思っておりますので、そういう意味で、是非、JAXAとYRPの意見交換という場を持っていただいて、そういうところをどう解消したり、例えば片や研究が、妨げにならないということが分かれば、それは、対立しているところが協力関係になるかもしれませんので、そういうことをしっかりやっていくという考えはあるのかどうか、そこをお伺いしたいと思います。

#### 産業振興課長

JAXAにつきましても、先ほど申し上げたような一部懸念の部分はございますけれども、このさがみロボット産業特区の趣旨に賛同して参加をしていただいているというところがございます。したがって、大体のロボットの実用化に向けた実証研究については、できる限り自分のところの技術も提供して、一緒になってやっていきたいというふうに言っております。その部分につきましては、YRPも共通しているかなというふうに考えております。

やはり我々は、協議会に加わっていただいた方々の専門性を生かして、このロボット産業特区の構想を実現してまいりたいというふうに考えております。

そういった中で、オブザーバーあるいは会員同士の意見交換、調整の場ということでございますけれども、これまでも、実証実験の実施あるいは企業誘致等におきましては、それぞれ部会を設けて、そういった意見交換、議論する場をつくってまいりました。

したがって、ただ今委員の方から頂きました部分につきましても、それぞれ調整をするような必要が出てきたときには、そういった場を設けていくということは十分あるのかなと思っております。

また、ホームページ等で情報を公表しておりますけれども、後々、メーリングリストのようなことで、それぞれ自分のところの情報を発信するようなことができれば、そういったことについても積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

#### 佐々木委員

今のメーリングリストなんかで様々情報発信しながら連携を図っていただくということが非常に大事だと思いますので、是非それを進めていただきたいと思っております。

実証実験推進部会も5月と8月にやっているし、産業集積促進部会も8月にはやっているということがあるんですけども、報告を聞いているだけでの、そう

いう会議体にするのではなくて、意見を自由に言えたり、連携を密にできるような、そういう場としていただくということを是非推進していただきたいと思いますので、名刺交換だけではなくて、議論が進むような、そういうような協議会あるいは協議会後のフォローをしていただきたいと、このように思っております。

それから、続いて我が会派も、介護福祉ロボットを推進してきて、特に生活支援ロボットの普及を推進しようとしている会派としても、病院とか企業とか様々な施設に視察してまいりましたし、また関係者を集めて、講演会みたいなものを専門家を呼んでやったりもしました。その中で、私の地元で、相模原市中央区ですが、様々な団体の方々に興味を持ってもらおうということもあって、パルコを実際に本会議場で動かさせていただきましても、それをもって地域で様々なやりました。産業振興課長に御協力をいただいて、パワーポイントなんかも用いて、液晶プロジェクターで映しながら、ロボットを動かしながら、ロボット産業特区のアピールをさせていただいた経緯があります。

その中で、ロボットを動かすと、皆さん、動画を撮ったり、写真を撮ったりして、すごく興味を持ってもらって、ロボットが、どのぐらい進んでいるかというイメージがなかなか県民の皆様には浸透していないので、そういうものを見せながら、意識を高めていくということで、非常にそれは、タイムリーだったなど私自身は思っているんですけども、今度、実際に自分たちがそれに関われるかどうかというような話になってくると、全然反応が違って、私の会社には関係ないんだというような、まだまだそんなようなレベルだったという印象なんですね。

ですから、そういう私の企業には関係がないとか、私には関係がないというところから、うちもそういう技術が使えるかもしれない、うちの技術も可能性があるというふうに変えていただくような、そういうアピールや促進をしていただきたいと思うんですね。

そういうことで、県も、一生懸命、神奈川版オープンイノベーションの参加企業を募って、参加しやすくしてきているのはいいとは思いますが、その辺の工夫をどうやっているのか、それから事例として、例えばこういうことがあって、気が付かなかった人が、うちのものも使えるんじゃないかと提案してきたとか、そういう良い事例があったら教えていただければと思います。

産業振興課長

今回、オープンイノベーションを進めるに当たりまして、まずどういったロボットが考えられるのか、そしてそのために、どういった技術を集めていって、それぞれの技術をどのレベルまで磨けばいいのかといったところについては、知事の方から会見で発信をさせていただきました。その中で、多くの企業の方々に、御自分のところの技術も、そういうところに使えるなど思っていただけのような機会をつくらせていただいたというふうに考えております。

また、私ども、商工会、商工会議所を通じて、様々な技術を持っていただける企業の掘り起こし、発掘をさせていただきましたけれども、その中で関心を持っていただいたところについては、今回のオープンイノベーションの御参加をいただ

けないかというようなことで、産業技術センターの方から個々にメールを出す等いたしました。そういった部分で、御自分のことというふうに思っていたけるような、そういう取組はさせていただいているところでございます。

それから、様々な提案ということでございますけれども、それぞれ一見関係がないようなところからも、自分のところの技術、あるいはこれまでやってきたことが活用できないかというようなお話を頂いた中では、例えばカイロプラクティックをやっているところの方から、人間の体の中で、まだ一つだけロボット化されていない、ロボットでできない部分があるんだと、それは骨盤で、それができれば世界初となりますよというような話なども頂いて、そういった部分で、自分たちのノウハウが生かせるのであれば協力したいというようなお話なども頂きました。

様々な方々からそういうお話を頂きながら、今後のオープンイノベーションの中にうまくその部分を生かしていければというふうに考えております。

佐々木委員

今、課長のお話のように、潜在的に本当に将来ロボットとして活用できるような、そういうものが宝の山のように眠っている場合もあると思うんですね。ですから、そういうことを掘り起こしていく作業というのは非常に大事なのではないかと、幅広くこのロボット特区に参加できる可能性がある人等を幅広く募っていくためにも、更に努力をしていただきたいというふうに思います。

それを意識して、ホームページを見たり、情報を得ようとする人はいいんですけども、オープンイノベーションに参加しなかった中小企業にもっともっと参加していただくように努力するための今後の方向みたいな、そういうものは例えばどういうものを考えているのか、是非伺いたいと思います。

産業振興課長

オープンイノベーションという場以外にも、産業技術センターが中心となりまして、様々な物づくり関係あるいはR&Dネットワーク構想、そういった関係のイベント等を各地で行うことがございます。また、国際ロボット展でありますとか、そういった場面にも、私ども、積極的に出展をしておりますので、そういった中で、数多くの企業の方々に、こういった取組を知っていただいて、そしてより多くの方々に興味を持っていただいて参加していただければと、そういった環境をつくっていききたいというふうに考えております。

佐々木委員

そういう意味からも、知事もおっしゃっていたさがみと言えはロボットという、そういうロボットゆるキャラみたいなのか、色々考えていただいて、そういうキャラクターとか、そういうことも含めてアピールしていただきたいし、今、中小企業の人たちが、技術はあるけれども、仕事がないから、作っていないということもあると思うんです。ですから、技術が生かしていけるようなイメージを湧かせていただきたいのと、例えば、この間、課長とお話ししている中で、例えばロボットを全部分解してみると、何千という部品があるわけです。ネジ一個でも、

うちはネジだったら作れるとか、こういう板だったらうちが得意だとか、そういうようにイメージできるようなもっともっと細かいアピールといいますか、そういうものも是非ホームページに載せていただいたり、様々なイベントでも展開していただきたい、技術者にとっては、部品そのものが命ですから、そういうものも分かるようなことを工夫していただきたいなど、こういうふうに思います。

一般の県民の方々にも幅広くアピールができるような努力もしていただきたいし、先ほども質問が他の委員からありましたけれども、ホームページの充実、それから各種イベントの参加の中でも、こういうロボット特区のイベントに参加する中で、こういうイベントに参加しますという予告みたいな、ロボット特区のこういうイベントに参加しますという予定なんかもどんどん載せていただいて、そのことによって、イベントそのものへの周知を県が図ってあげることにもなるし、そうするとどんどんオーダーもあるんじゃないかと思うので、参加するイベントをこちらから周知してあげることでも大事ではないかなというふうに思いますので、そういうことも含めて今後どのように取り組んでいこうとしているのか、この質問の最後の質問としてお聞きしたいと思います。

産業振興課長

まず、広く多くの県民の方々を知っていただくために、あらゆる機会を使ってイベント等に参加し、そのイベント自体も、今、委員おっしゃったように、盛り上げられるようなロボットの体験機会というようなところを数多く増やしていきたいと考えておりますし、事前にそういったところが十分周知できるような工夫もしてまいりたいと考えております。

それから、やはりオープンイノベーションに今回御参画頂いている中小企業の方は、どちらかといえば要素技術の中でも、大きなセンサーであるとかモーターであるとか、そういった部分を中心の方ですけれども、今御紹介いただいたように、様々な素材を使ってロボットは成り立っておりますので、そういったネジであるとか歯車であるとか、こういったものが使われているかといったところについて、その組立ての現場を動画サイトで公表している企業もございます。それから、組み立てる現場を公開している企業もございますので、そういったところの情報等も併せて発信することで、その裾野の広さを感じていただいて、より多くの企業に参加していただけるような、そういった工夫をしてまいりたいと考えております。

佐々木委員

是非そのようにしていただきたいというふうに思います。

続いて、若年者の就業支援についてでございますけれども、8月は、失業率がまたちょっと悪かったという新聞記事もありましたが、まず確認で、若年者の就職支援プログラム事業というのを教えていただきたいと思います。

雇用対策課長

若年者就職支援プログラム事業でございますが、中小企業と若者の雇用のマッチングの促進ということを目的に、国、市町村、商工会議所等と連携しながら、

中小企業との交流会ですとか、セミナーを実施する取組になっています。その中心的な事業として位置付けておりますのが若者と企業との交流イベントというものでございまして、初めに中小企業や仕事に対する視野を広げていただいて、このイベントでのコミュニケーションを円滑に図るためのセミナーも開催しております。

それから、その次のステップとしまして、中小企業の若手の職員の方、あるいは採用の担当の方と若者の方が双方に意見交換できる交流イベントというものを開催いたしまして、就職面接会等では聞くことのできない職場の雰囲気ですとか仕事のやりがいですとか、こういったような話題を中心に、若者と中小企業双方のコミュニケーションを図って、若者が中小企業に目を向ける場として行っております。

また、その他県内の中小企業の高い技術力とか成長性を実感できるような企業の見学ツアーも実施いたしております。

佐々木委員

非常に良い取組をしているというのは分かるんですけども、いろいろ様々メニューをどれだけ引っ張ってこられているのかなとすごく感じる部分があるんですね。基本的には、国がしっかり雇用促進をやっていかなきゃならないと思うんですが、もっと使えるようなメニューを引っ張ってくるべきなんじゃないかという感じを受けるので、そこが課題かなと。全国の都道府県が、国のメニューをどう使っているのかというのをよく調べていただいて、今後の参考にさせていただければというふうに思っております。これはまた違う機会にやりたいと思っております。

今、言っていた若者の企業交流イベントに参加した人たちが、どういう意見だったのか、それからあわせて、この交流会で参加した人たちが様々な中小企業に興味を持ったかもしれないと思うんですけども、それをどう就職に結び付けていこうとしているのか、その辺、併せてお聞きしたいと思います。

雇用対策課長

この若者企業交流イベントに参加した方の意見でございます。人数の少ない中小企業でも、やりたい仕事ならば積極的に挑戦してやっていきたいですとか、あるいは業種とか業界を限定しないで、魅力ある企業を探していきたいとか、あるいは人によっては、中小企業の中でも医療福祉系の企業に興味を持てたとか、いろんな意見が寄せられております。

それで、こういった参加したことによって、それをどういうふうに、今後、就職の方に結び付けていくかということですが、こういったイベントに参加していただきまして、中小企業に関心を持っていただきまして、最終的に就職の面接会でうまく採用していただければいいわけでありまして、この交流イベントに参加していただいて、その後、面接会の前に、直前面接対策セミナー等も県の方でやっておりまして、こういったところで、模擬面接の練習等をさせていただきまして、こういったことに御参加頂いて、それで就職面接会の方に臨んでいただく、

こういったような段取りになっております。

佐々木委員

我が会派等でも、青年局がありまして、それを中心に、全国でアンケート調査をしばらく前にやりました。その中で、就職する学生、あるいは3年ぐらい就職できないで悩んでいる方とも対話もしたし、あと産業人材課長にお願いして、東部職業技術校にも行って、その学生さんたち十何人と交流会、ランチミーティングをさせていただいたということもあって、そうして聞くと、ハローワークは余り使わず、就職用のサイトで検索して自分でやっている、そこでミスマッチがあるということが分かったり、様々壁が、御家庭のお母様だったりしている場合があるんですね。本人は、企業の人と交流して、良い企業だなと、就職を希望しても、どうしても親サイドは、もうちょっと資本金が多い上場企業がいいんじゃないかと言ってしまうという事例があったんですけども、そういうことを解消していかなきゃならない、そこに壁があったのかというようなことがあって、どうしても、大企業志向というか、上場しているようなところを希望したいというのが実際あったんですね。

ですから、私は、それをどうやって解消していくかということが大事だと思うんですね。保護者の皆様にも、この就職難のときに、そういうような志向だけではなく、中小企業のすばらしい技術を持っていたり、人材育成できるような、社会貢献できているような、そういう意識を変えていくようなことも必要なのではないかと思います。それも、県も気が付いていると思うので、その辺の取組についてお伺いしたいと思います。

雇用対策課長

委員のお話しされた事例、若者就職センターでもそのようなお話は何っております。若者が、中小企業に就職内定を頂いたんですが、保護者の方が反対されて、就職を諦めたというケースがございました。保護者の方からしてみると、中小企業の経営が安定していないから、将来に不安があるのではないかというようなお話があったということでございます。

また、今の保護者の方は、自分が就職したときの就職活動のイメージを持たれておりますけれども、その当時と違って、今の就職活動はまた違うということで、なかなか親御さんのアドバイスが、今の時代の就職活動に適当なのかどうかというのがあると思います。

そういったケースがございますので、保護者の方にも、この若者の方の就職を応援してもらう意味でも、地域で頑張っておられる中小企業の魅力、将来性、こういうのを知っていただく必要があるかなと思っております。

そこで、県では、若年者就職支援プログラムの一環として、就職活動中の若者の保護者向けに、保護者向けの就職支援セミナーというものをやっております。昨年度は、2回開催して77人の保護者の方に御参加いただきまして、参加された方の声としましては、子供との関わり方とか親の考え方が、思った以上に影響を与えるということが理解できた、これから子供の仕事の選び方の参考になった、



親として見守りながらアドバイスしていくことができそうだと、あるいは子供への接し方が勉強になりましたと、否定するばかり、会話のない日常、こういうのを変えていかなければいけないんだと、こういったような声を頂いております。

佐々木委員

県は自前で予算を組んでやっているんですが、本来は国が、若者の就業支援に係る経費をもっと都道府県に移譲させて、もっと現場感覚がある地方自治体が推進していくべきなんではないかなと思っているので、国の方にもどんどん要望して討論していただきたいし、私どももしていきたいと思っております。一人でも多くの若者が就職できるように、努力していただくことを要望して、今回の質問は終わります。